

台湾統治政策史研究にとって重要な文献を厳選復刻。

台湾史研究叢書

第二期全五巻

檜山 幸夫 編・解説



クレス出版

台湾史研究叢書 第二期全五巻

檜山 幸夫 編・解説

- | | | | |
|-----|--------------|---------------|-----------------------|
| 第六巻 | 台湾島史、台湾土俗誌 | 定価13,000円(税別) | ISBN978-4-87733-677-6 |
| 第七巻 | 台湾志 | 定価17,000円(税別) | ISBN978-4-87733-678-3 |
| 第八巻 | 台湾匪誌、事変と台湾人 | 定価19,000円(税別) | ISBN978-4-87733-679-0 |
| 第九巻 | 台湾の蕃族 | 定価26,000円(税別) | ISBN978-4-87733-680-6 |
| 第十巻 | 蕃郷風物記、台湾地名研究 | 定価20,000円(税別) | ISBN978-4-87733-681-3 |

A5判/上製函入/クロス装 平成24年6月刊行
揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-682-0(セット) C3322

クレス出版好評既刊書

台湾史研究叢書 全五巻

檜山幸夫 編・解説

- | | | | |
|-----|------------------------|---------------|-----------------------|
| 第一巻 | 台湾史と樺山大将 | 定価26,000円(税別) | ISBN978-4-87733-623-3 |
| 第二巻 | 西郷都督と樺山総督、明治七年 生蕃討伐回顧録 | 定価22,000円(税別) | ISBN978-4-87733-624-0 |
| 第三巻 | 台湾殖民発達史 | 定価12,000円(税別) | ISBN978-4-87733-625-7 |
| 第四巻 | 台湾文化史説 | 定価 9,000円(税別) | ISBN978-4-87733-626-4 |
| 第五巻 | 台北市政二十年史 | 定価26,000円(税別) | ISBN978-4-87733-627-1 |
- 揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-628-8(セット)

日本植民地下の朝鮮研究 全9巻

広瀬 順皓 編

- | | | | | |
|-----|-----------|-----------|-----------------|----------------------------|
| 第1巻 | 総督政治 全 | 青柳綱太郎 編 | 定価18,000円(税別) | ISBN978-4-87733-563-2 |
| 第2巻 | 朝鮮統治論 初版 | 青柳綱太郎 著 | 定価24,000円(税別) | ISBN978-4-87733-564-9 |
| 第3巻 | 最近の韓国 | 松宮春一郎 著 | | |
| | 朝鮮の人口研究 | 善生 永助 著 | | |
| 第4巻 | 朝鮮統治秘話 | 朝鮮行政編輯局 編 | 定価26,000円(税別) | ISBN978-4-87733-565-6 |
| | 朝鮮に於ける内地人 | 朝鮮総督府 編 | | |
| | 近代朝鮮史研究 | 朝鮮総督府 編 | 定価24,000円(税別) | ISBN978-4-87733-566-3 |
| | 第一回全4巻 | | 揃定価 92,000円(税別) | ISBN978-4-87733-567-0(セット) |
| 第5巻 | 近代朝鮮史 上巻 | 菊池 謙讓 著 | 定価18,000円(税別) | ISBN978-4-87733-590-8 |
| 第6巻 | 近代朝鮮史 下巻 | 菊池 謙讓 著 | 定価16,000円(税別) | ISBN978-4-87733-591-5 |
| 第7巻 | 朝鮮文化史論 | 細井 肇 著 | 定価18,000円(税別) | ISBN978-4-87733-592-2 |
| 第8巻 | 朝鮮史話 | 幣原 坦 著 | | |
| | 朝鮮開教五十年誌 | 朝鮮開教監督部 編 | | |
| | 天道教と侍天教 | 渡辺 彰 著 | 定価24,000円(税別) | ISBN978-4-87733-593-9 |
| 第9巻 | 朝鮮は起ち上る | 鎌田沢一郎 著 | | |
| | 朝鮮開拓誌 | 原田 彦熊 著 | 定価18,000円(税別) | ISBN978-4-87733-594-6 |
| | 第二回全5巻 | | 揃定価 94,000円(税別) | ISBN978-4-87733-595-3(セット) |

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎(03)3808-1821 ㊚(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版

東京大学
檜山幸夫

本期刊行は、主に台湾統治政策史研究にとっても重要な文献を収めた。

日本の台湾統治は、近代植民地時代における帝国主義的支配をその支配原理としてい
ることから、支配の正当性やその方法は観念的支配論や伝統的支配論といった前近代的
手法から脱した新しい知識と思想を取り入れざるを得なくなっていた。とりわけ、台湾島
のように、外部からの「島の支配者」渡来の征服者」がたびたび変わったところでは、新
たなる支配者の正当性を論理的に説明しておくことと、現支配が如何にその「島の支配者」
として優れたものであるのかといったことを証明する政治的実践とが求められていった。

台湾島の正当なる住民となるのは、台湾原住民とよばれる先住の人々であるが、彼等は
人口において余りにも少数過ぎた。一方、台湾島は大きいばかりではなく、東アジア経済
圏と南洋交易の交通路に位置していたため、決して孤島ではなかった。したがって、この
ような外来者による「島の支配」をめぐっては、現在の支配の根拠とは別の論理としての

歴史的必然論をも確立していく必要があった。

支配者に求められる政治的要求の一つに、統治の実績がある。それは、支配者としての
能力評価にかかわるもので、日本の台湾統治に対する外部評価とも言うべき欧米諸国か
らの評価が統治者の脳裏の多くを占めていた。そこで大きな政策課題の一つになってい
たのが、理蕃政策と呼ばれた台湾原住民支配についてであった。近代日本の台湾島とのか
わりは、この「化外の民」とされてきた台湾原住民との関係から始まったものであること
から、台湾総督府にとっては彼等を如何に支配し文明化していくかが至上命題となってい
く。かかる国際環境と歴史性及び近代という時代性から、台湾総督府は積極的に「科学
的」方法を用いた実地調査による実態把握と科学的分析を基に統治支配を行っていく。そ
こで大きな役割を果たしていたのが人類学研究であった。このため、日本統治時代では早
くから台湾原住民に対する人類学的研究が支配の学問として開始されていくことになる。

一方、領有時に圧倒的多数を占め高い文化と産業経済を誇っていた漢族系住民への支配
では、大陸の政治情勢ともかわり比較的速度いテンポで日本化と近代化が浸透していった。
それが、日中戦争以降の中国戦線への台湾人の従軍にほかならない。

本期刊行は、台湾統治史の一断面を、統治支配に大きな役割を果たした人類学研究の
書籍を中心に、次いで台湾全域支配を貫徹させるためにも求められる地理学的研究、さ
らに統治実績を示す台湾人の中国戦線従軍に関する文献を収めた。

第七卷

台湾志

第二章 割譲以前の臺灣(其の一)

一 臺灣の初めて知られし時期

臺灣は、支那海上の一島にして、往古東洋航海の開けざりし時代に於ては、猶ほ
十六世紀以前に於ける、アメリカ大陸の如く、世界の知る所とならざりき。而し
て其の土蕃の如き、此の海島に占居せし起原極めて鴻荒に屬して、今之を致ふ
べからず。有史以前に於ける發見の由來は姑らく措き、有史以後に於ける發見
の沿革を討ぬれば、其の初めて世界の一國に知られし初期は、實に支那の隋代
に在りて、これが發見者も、亦地理上自然の結果として、支那人に在りたりき。蓋
し當時支那に於ては、中古に於ける文物隆盛の時にして、就中我が日本との交
通殷盛なりしを以て、支那海を北に進みて、我が國の西南に往來せし航海は、早
くも支那人をして、臺灣の存在を知らしむるの導火となり、開皇中(我が崇峻推
古朝)虎賁陳稜の澎湖諸島を略有するあり、次で時の海師何夔等が、絶東海上遙
沿革志 第二章 割譲以前の臺灣(其の一) 一三

臺灣に於ける支那人

第九卷

台湾の蕃族

臺灣の蕃族

藤崎濟之助著

第一編 種族

第一章 生蕃

第一節 臺灣の先住民

臺灣の住民は、土著の先住民たる蕃族と、過去三百餘年以來支那大陸より移住したる漢民族、即ち
支那系統の臺灣人と、領臺後渡來せる我々日本人との三種族に大別することが出来る。尙此外に外國
人の在留する者あるも、其多數は臺灣人と同一系統の支那人であつて、其他の外國人は至つて少數で
ある。以上の内日本人と臺灣人及支那人とは、人種學上より云へば主として蒙古及亞細亞種族の部類
に入るべきものであるが、蕃人は南方民族中の馬來系統インドネシアに屬し、支那大陸より渡來せ
る漢民族とは、其容貌・體格・言語・風俗等を異にし、臺灣の住民中最古の民であつて、太古の臺灣は
此蕃族の郷土であり亦天國であつたのである。斯くて臺灣の自然は此蕃族の占據に因つて、偶然にも
間接に保護されたのであつて、西曆一千五百九十年(皇紀二千五)臺灣海峡を通過せる葡萄牙の航海者を

台湾史研究叢書 第二期全五卷

第六卷

台湾島史

ルードウキ・リース著、吉田藤吉訳／富山房／明治三十一年
【内容】台湾最古の住民并琉球の名称、馬來人台湾占領の時代及顛末、客家渡來の顛末、歐人台湾島見聞の顛末、日本人渡台の起源及殖民策の失敗、和蘭人及西班牙人台湾殖民の創立、浜田弥兵衛と台湾総督ビーター、ヌイツとの争闘、和蘭治下の台湾、国姓爺の台湾征略、台湾独立の時代、支那統治時代の台湾

台湾土俗誌

小泉鉄著／建設社／昭和八年
【内容】台湾蕃族概観、霧社蕃とその社会制度、タイヤール族の慣習、タイヤール族の信仰と禁忌、食物・治療・奴隸・刺墨、アミ族の社会組織と統治組織、アミ族の年中行事、土地共有より私有へ、アミ族に於ける男女の対立、末子相続について、出草判決、霧社蕃に於けるガザの研究、アミ族の年齢階級制度の研究、蕃人統治の問題、蕃人生活と統治

第七卷

台湾志

伊能嘉矩著／文学社／明治三十五年
【内容】地名沿革、割譲以前の台湾(台湾の初めて知られし時期、台湾に於ける和蘭人の依拠、和蘭人の土蕃教化、台湾に於ける日本人の事業、台湾に於ける西班牙人の依拠、明末の海寇の依拠、台湾に於ける鄭氏、清國の台湾領有、台湾に於ける内訌匪乱、分類械闘、台湾に於ける支那人の移殖、産業發達の沿革、台湾支那間の海路、外人の台湾経略、台湾に於ける阿片始末、台湾蕃地領域問題、清國政府の台湾刷新、台湾に於ける清國統治の末路、治台の政治家、清國の治下に於ける台湾の行政沿革、台湾の修志事業、清國政府の理蕃施設、支那人の蕃人教育、固有土人と移殖異人族との生存競争)割譲以後の台湾(台湾授受、台湾鎮定、人民の綏撫、台湾領有の宣言、行政施設、台湾沿革概論

第八卷

台湾匪誌

秋沢次郎著／杉田書店／大正十二年
【内容】台湾住民の性情、軍政及民政初期時代、北埔事件、林圯埔事件、土庫事件、苗栗事件、六甲事件、西來庵事件
事變と台湾人

竹内清著／日滿新興文化協会／昭和十四年

【内容】國家愛に飢うる者、歴史の出発、私は上海へ従軍した、軍夫志願の赤誠、中支に働く餓の勇士、台湾農業義勇団を訪ふ、義勇団の近況、言葉の戦士、愛國の赤誠に歸一される姿、農業と電力の台湾、専売王国の台湾、皇民化運動に就いて、愈々義務教育実施、私は事變を斯く観て来た、新生廈門の建設と台湾人、時局下の高砂族

第九卷

台湾の蕃族

藤崎濟之助著／國史刊行会／昭和六年
【内容】種族、社会組織、慣習及制裁、性能及智徳、生活状態、親族、宗教、理蕃沿革、帝國領台後の理蕃、霧社事件と蕃社襲撃事件

第十卷

蕃郷風物記

小泉鉄著／建設社／昭和七年
【内容】東部と蕃人、奇密社のことども、蕃郷風物、オットフを拝する蕃人、蕃人の慣習と土俗、山の蕃人、蕃人の犯罪観、蕃人の恋愛と結婚、蕃婦を描く、台湾の夏の旅、台湾の蛇、台湾の道路、蕃界日記
台湾地名研究

安倍明義編／蕃語研究会／昭和十三年
【内容】総説(地理概説、住民、政治沿革、地名の起源)、台湾の名称(漢人に与へられた名称、日本人に与へられた名称、西洋人に与へられ